

株式会社ギフライス

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2026年3月31日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社ギフライス（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

## 目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社ギフライスの企業概要 .....	1
(2) 株式会社ギフライスの事業概要 .....	3
(3) 経営理念 .....	10
(4) サステナビリティ.....	11
2. インパクトの特定 .....	13
(1) バリューチェーン分析.....	13
(2) インパクトマッピング .....	13
(3) インパクトレーダーによるマッピング .....	14
(4) 特定したインパクト.....	16
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認 .....	19
3. インパクトの評価 .....	21
4. モニタリング.....	24
(1) 株式会社ギフライスにおけるインパクトの管理体制 .....	24
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング .....	24

---

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 株式会社ギフライスの企業概要

企業名	株式会社ギフライス
創業・設立	1951年4月1日
代表者名	恩田 喜弘
資本金	91百万円
従業員	29人(2026年1月時点)
売上高	3,748百万円(2025年3月期)
事業拠点	本 社 岐阜市東鶉1丁目110番地の1 北営業所 岐阜市粟野東5丁目2番地
事業内容	米販売、米精米、食品製造



<本社>



<北営業所>



## &lt;沿革&gt;

1951年	岐阜米穀協同組合連合会設立
1971年	大型精米工場建設
1976年	玄米低温倉庫建設 玄米流通倉庫建設
1978年	胚芽精米機設置
1980年	クリーンライス高性能精米機設置
1988年	コンピュータシステムの導入
1990年	バラ荷受設備及び精米最新設備・工場の新設／導入
1995年	連合会及び傘下6事業協同組合の合併 ギフライ協同組合の設立
1996年	食味計・品質判定機・最新オートパッカーの導入
1997年	コンピュータシステムの拡張
1998年	ハツシモ、富山コシヒカリの無洗米の販売を開始
1999年	最新大型色彩選別機導入 最新胚芽精米機の更新 新商品「ハツシモ鉾泉粥」の発売
2001年	株式会社ギフライの設立 無洗米処理精米製造装置の導入
2003年	パソコン新管理システム「ORYZA」の導入 最新色彩・異物選別機の導入
2005年	コンタミ対応型 最新精米設備の導入
2006年	北営業所最新精米機の更新 最新食味計システムの導入 瑞穂市に小売部「こめ穂」を出店
2007年	最新大型オートパッカーの導入 異物除去装置クリーンセパレータ全工程に設置 北営業所精米本機増設 ガラス色彩選別機 120th 2台導入
2008年	加水式無洗化処理設備の導入 二次選別、色彩選別機 120th 導入

2011年	放射能測定器の導入
2013年	ハツシモ産地ブランド米として販売開始 輪之内町徳川将軍家御膳米のブランド化にむけ、輪之内町、生産組合、同社の3者協定を締結
2016年	徳川将軍家御膳米と黒豆のコラボ企画商品「御膳米黒豆ごはん」の発売開始
2017年	徳川将軍家御膳米と黒豆のコラボ企画商品「御膳米黒豆ごはん」のギフト商品「極」「彩」の発売開始
2018年	本社精米センターHACCP 認定 北営業所最新ガラス色彩選別機導入
2020年	北営業所精米センターHACCP 認定
2022年	現代表者が代表取締役役に就任 清流のめぐみ 販売開始

## (2) 株式会社ギフライスの事業概要

岐阜県に根差す県内最大の米卸業者として、確かな品質を維持しつつ新鮮で美味しい米を顧客に届け、地域の食を支えている。

### 【事業内容】

地元である岐阜県をはじめ、全国の主要産地（北は北海道、南は宮崎県）から安心・安全な米を購入し、衛生的で高性能な設備で精米、商品化している。岐阜県産米を中心に 100 種類以上を取り扱い、日本の主食である米の安定供給を通して食文化に貢献している。

### 【取扱商品】

- 清流のめぐみ

2022 年秋より、岐阜県で開発された、商品名「清流のめぐみ」を販売。  
岐阜県農業技術センターが、夏季の高温耐性や台風による倒伏にも強く、食味が「コシヒカリ」と同等に良い、新たな水稻品種を開発。令和3 年度からオーダーメイド型米産地づくり研究会※が大切に育ててきた。  
※会員：生産者 19 名、米卸 3 社、全国農業協同組合連合会岐阜県本部、  
(一社) 岐阜県農業会議、岐阜県（事務局：農産園芸課）  
「清流」は岐阜県内を流れる木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）をイメージしており、清流で育った「美味しいお米」＝「めぐみ」という意味を込めている。  
また、若手農業者が「清流のめぐみ」の産地づくりに挑戦し、岐阜から全国に自慢できる米品種にしていくという意気込みを込めている。





- 徳川将軍家御膳米（岐阜県輪之内町産）

岐阜県安八郡輪之内町では、江戸時代初期から幕府直轄領として将軍家台所の米を産出してきた歴史があり、米の品質や管理の良さが評価された歴史がある。この歴史を活かし、輪之内町産ハツシモを「徳川将軍家御膳米」と名づけたブランド米として販売している。

農薬や化学肥料を慣行栽培米に比べ 30%以上削減し栽培にも関しても安全面に配慮している。また、江戸時代の記録をヒントにし、地下水だけを使用した栽培をしている。

輪之内町は、長良川や揖斐川などきれいな水源に囲まれた自然豊かな地域。そんな輪之内町での「徳川将軍家御膳米」づくりは、ぎふグリーン農業※として認められている。

※有機物等を有効に活用した土づくり並びに環境への負荷の大きい化学肥料、化学合成農薬等の効率的な使用と節減を基本とし、生産性と調和できる幅広く実践可能な環境にやさしい農業

<徳川将軍家御膳米生産組合>



- 御膳米黒豆ごはん  
江戸時代に将軍家に献上していた輪之内町の米と、輪之内町の自然の中で育った驚くほど大粒で色が濃く品質の良い黒豆（丹波黒）を使用した原料産地指定のコラボ飯。



- 無洗米 岐阜県産ハツシモ  
無洗米は水を入れるだけでそのままご飯が炊くことができる。きれいな水での「クロス洗米方式」で理想的な洗米を実現し安心出来る無洗米を届けている。「瞬間洗米」でうまみ成分を残し糠だけをきれいに取り除いているのでおいしく炊き上がる。米を洗う手間がかからず大変便利で経済的。とき汁がでないので河川を汚さない。



- はいが米（岐阜県産ハツシモ）  
岐阜県産ハツシモを原料とし、品質及び流通量が保証されていて胚芽による栄養面は、ビタミン B1・B2・E、ナイアシン等、食物繊維が豊富。以前は、胚芽が取れにくい品種が選ばれていたが、精米機の進歩でコシヒカリのような胚芽が脱落しやすい品種も使われている。



玄米



白米



はいが精米



- 飛騨コシヒカリ

小京都と呼び名の高い飛騨高山の米であり、山間高冷地の清らかな水など、米作りの条件が揃った他所と比較しても優れた味覚を楽しむことができる。



- ギフライス厳選「極」

日本全国から厳選した 6 銘柄を揃え、産地や品種の違いによる味わいを楽しむことができる。

3 合 (450g) × 6 袋入り

富山県産「富富富 (ふふふ)」

岐阜県輪之内町産「徳川将軍家御膳米」

岐阜県産「飛騨コシヒカリ」

新潟県産「新之助」

宮城県産「だて正夢」

滋賀県産「みずかがみ」



- ギフライス「彩」

岐阜県輪之内町の米と黒豆を使い、米と黒豆と調味液の 3 つがセットになり、家庭で簡単に 2 合の黒豆ごはんを楽しむことができる。

御膳米黒豆ごはん 387g×2 袋と米 3 合 (450g) × 3 品種を詰合せ

岐阜県産「御膳米黒豆ごはん」

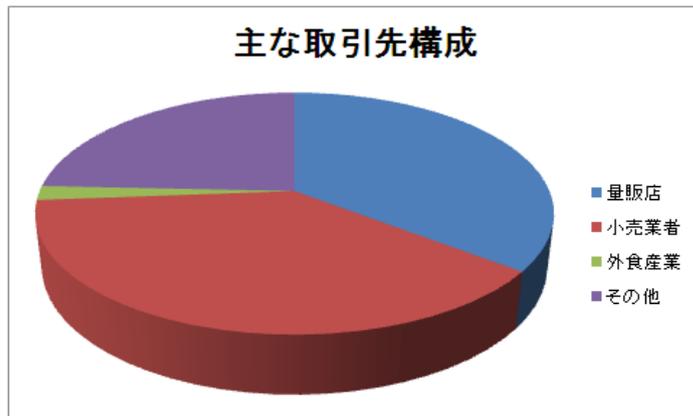
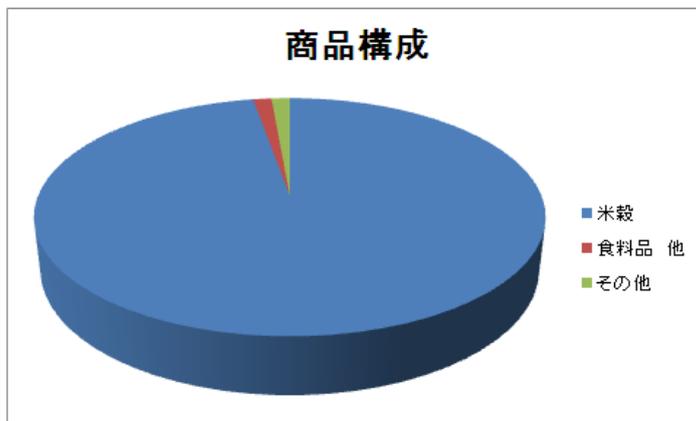
岐阜県産「飛騨 いのちの壱」

岐阜県産「徳川将軍家御膳米ハツシモ」

岐阜県産「飛騨コシヒカリ」



- 黒豆入飴（塩・黒糖）  
 大粒で香り高い黒豆をふんだんに使用している。  
 暑い夏でもさっぱり食べることができる塩味と甘くてコク深い黒糖味の2種類がある。



【設備概要】

〈荷受ホッパー〉

玄米を流し込む



〈石抜機〉

玄米に混じった石・ホコリ等を除去



〈混米対応型精米機〉

玄米の表面をムラなく削り精米にする



〈異物除去装置〉

異物を取り除く



〈流下式選別機〉

乾式仕上機で米粒のヌカを取り除いた後、  
大きさや形の悪い米、割れた米を除去



〈自動計量包装機〉

着色した米やガラス・プラスチック等の異物を除去  
した後、米を正確に計算し袋詰めする



#### 【同社の強み】

- 日本精米工業会の正会員として「F マーク」※を取得済みである。

※日本精米工業会が認定した精米工場で、厳しい品質管理とチェックに基づいて製品化された米の総称。

岐阜県内の正会員は同社を含め 6 社のみ。
- 同社は安全な精米を顧客に提供し続けるために「精米 HACCP」※を取得済み。

※HACCP 手法を精米の製造工程に採り入れ、すべての工程を管理、監視し、安全な精米の製品化を実現するため、日本精米工業会が認定機関となり、業界をあげて精米 HACCP に取り組んでいる。
- 従来は岐阜県産米の流通が少なく、スーパーで販売している銘柄のほとんどがハツシモのみ。その中で、同社は飛騨地方のコシヒカリに着目し、県内でいち早く商品化に成功。今では地域ブランド米として岐阜を代表する特 A ランクの米となり、広く認知されるようになった。
- 顧客からの緊急の依頼にも可能な限り応えることを信条とし、大手にはできない小回りの利く営業と柔軟な対応力といった地道な積み重ねにより信頼を築いてきた。この姿勢が顧客から評価され、各取引の拡大につながっている。



#### 【今後の展開】

- 岐阜県オリジナルのブランド米「清流のめぐみ」の販売に特に力を入れていく。同商品は、高温に強く倒れにくいという現代の気候に適した特性を持っている。パッケージデザインは地元の農業高校生が担当した。同社と生産者が主体となって育て上げた点が画期的で、県の奨励品種になった。同社が 10 年越しで関わってきた銘柄が、県のお墨付きを得て、この先も岐阜の地で受け継がれていくことになる。この米を通じて、岐阜の米のブランド価値を高め、全国にその魅力を発信していく。
- 3 年程前から米粉事業を開始し、近隣のパン屋や学校給食で利用されている。また、天ぷら粉としても利用可能で、小麦アレルギーの人の代替食材に適しており、今後の売上増加を見込む。
- 主要な顧客との関係を強固にしつつ、地域の小売店にも密着した販売を継続していく。米価格の高騰により小売店の廃業が増加しているが、全国の生産者との連携を一層強固なものにして米の安定供給につなげ、小売店から直接購入していた顧客が困ることのないよう穴埋めし、この地域に貢献していく。後継者の育成にも力を入れ、5 年後、10 年後を見据え、会社を背負って立つ人材を育成していく。そして、生産者とともに新商品の開発を通じて業界の利益構造を改善し、次世代に対して「未来ある産業」としての農業を示していく。

(3) 経営理念

同社は以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

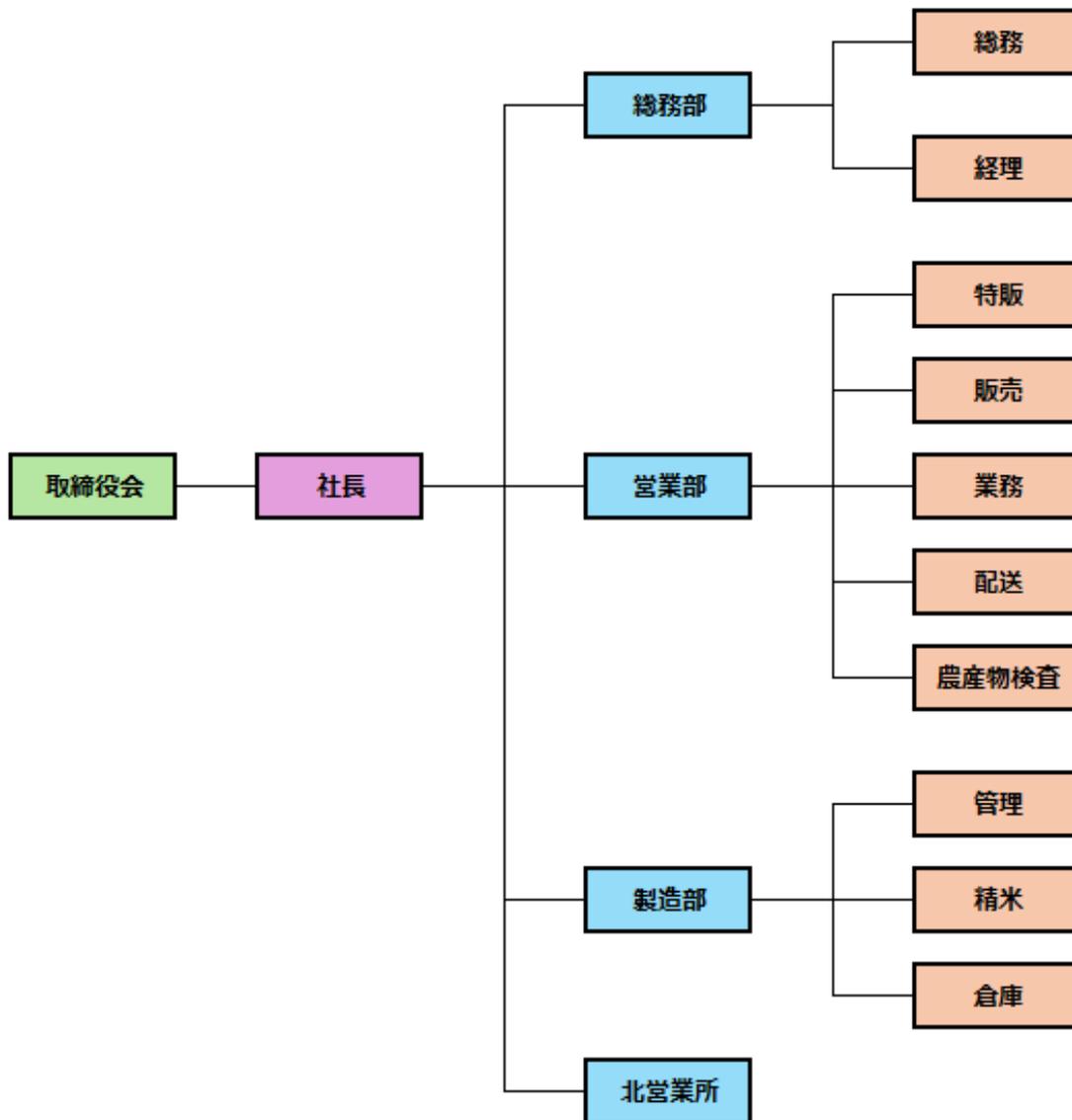
【経営理念】

飽食時代に、量より質の追求こそが成長の決め手である。地域密着型の米穀販売業者として、究極の精米技術力のパワーアップをテーマに、たゆまなく前進する。

何事においてもチャレンジ精神をモットーに、合理的且つ効率的な運営を基にビッグなスケールで食糧未来を捉え社会に貢献する。

- 毎日の朝礼で、社員にイメージアップルールの唱和を実施している。
- 毎月1回、代表者が全社員に訓示を行う中で、経営理念も発信している。

【組織体制】



#### (4) サステナビリティ

同社はSDGs宣言を定め、これを指針として課題に取り組んでいる。

それぞれの重点項目(マテリアリティ)において、具体的には以下のような取り組みを行っている。

##### ① 地球温暖化への取組

設備更新等による省エネ・CO<sub>2</sub>排出量削減や、リサイクルへの取り組みにより、事業活動による環境負荷軽減を図ります。



##### ② 責任ある企業行動

食品安全マネジメントシステムに即して、お客様のニーズに応じた高品質で安心安全な商品と真心をお届けすることで、企業責任を果たします。



##### ③ 地域への貢献

地元人材の積極採用や地産地消・食育への取り組み、地域貢献活動などを通じ、持続可能な地域社会の実現に貢献します。



その他 (SDGs 宣言以外)

- 地域貢献
  - 本社近隣のこども食堂等に、毎月 1t の米を 5 年間にわたり提供 (合計 60t) し、岐阜県社会福祉協議会より感謝状を受領した。  
「地域たすけあいの会」



- 代表者の出身地である山県市のこども食堂に毎月 50kg の米を提供している。  
「やまっ子食堂」: 20kg、「にこべこぐう」: 30kg
- スキルアップ支援  
業務上有効と考えられるフォークリフト免許や農産物検査員、食品衛生管理者等の資格取得にかかる費用や精米技術の講習費用については、全額会社負担とし、資格取得や技術習得を励行している。
- スポンサーとしての協賛  
岐阜県のプロバスケットチーム「岐阜スーパース」や岐阜県のケーブルテレビ局「CCN」に、スポンサーとして協賛している。
- 「中学生のためのお仕事ブック (岐阜県版)」※への協賛  
同社の事業が「お仕事ブック」で紹介されている。社会の一員としての自覚が芽生え始める中学生のサポートに繋がっている。  
※ 岐阜県内の地元産業及び企業の魅力を知ってもらうために、県内の中学校で配布される副読本

## 2. インパクトの特定

### (1) バリューチェーン分析

- 同社は、岐阜県内最大手の米卸業者で、農協などから仕入れた玄米を自社で加工し、全国展開する大手量販店へ供給している。
- 主力は岐阜県産のハツシモやコシヒカリで、100 種類以上の多様な商品ラインナップを持つ。小回りの利く営業体制を強みとしており、取引先からの急な要望にも迅速に対応できる点が高く評価されている。また、生産者と連携し、高温にも強く倒伏しにくいブランド米の開発にも取り組むなど、品質向上と地域農業の発展に向けた継続的な取組も行っている。



### (2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。
- 同社の事業を、「精穀・製粉業（国際産業標準分類：1061）」とする。
- 川上の事業を、「米の栽培（同：0112）」とする。
- 川下の事業を、「食料品、飲料またはたばこが主な非専門店小売業（同：4711）」、「専門店による食料品小売業（同：4721）」とする。
- 以上の事業について、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

### (3) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン			川上の事業		同社の事業		川下の事業				
業種 (国際標準産業分類コード)			米の栽培 (0112)		精穀・製粉業 (1061)		食料品、飲料または たばこが主な非専門店 小売業 (4711)		専門店による食料品小売業 (4721)		
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	
社会	人格と人の安全保障	紛争									
		現代の奴隷制度		●●							
		児童労働		●●							
		データのプライバシー									
		自然災害		●●							
	健康と安全	健康と安全	●●	●●	●	●		●		●	
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	水			●●						
		食糧	●●		●●	●	●	●	●	●	
		エネルギー									
		住居									
		健康と衛生									
		教育									
		移動手段									
		情報									
		コネクティビティ									
		文化と伝統				●				●●	
	ファイナンス										
	生活	雇用	●●		●		●		●		
		賃金	●	●●	●	●●	●		●		
		社会的保護		●●		●		●		●	
平等と正義	ジェンダー平等		●●								
	民族/人種の平等		●●								
	年齢差別										
	その他の社会的弱者		●●								
社会経済	強力的な制度、平和、安定	法の支配									
		市民的自由									
	健全な経済	セクターの多様性									
		零細・中小企業の繁栄	●		●		●●		●●		
	インフラ	インフラ									
経済収束	経済収束										
自然環境	気候の安定性	気候の安定性		●●		●					
	生物多様性と健全な生態系	水域		●●		●					
		大気				●●					
		土壌		●●							
		生物種		●●							
		生息地		●●							
	サーキュラリティ	資源強度		●●		●●					
		廃棄物		●●		●●				●	

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

川上・同社・川下の事業において発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。  
川下の事業は、同社が与える影響が小さいため、省略する。

	大分類	インパクトエリア	インパクト		取組内容	対応するSDGs	
			PI	NI			
川上	自然環境	生物多様性と健全な生態系	水域 土壌 生物種		○	環境保全米を製造することで、土壌や水質保全、生態系保護に貢献している。	6.3 12.4 15.4
同社	社会	健康と安全	健康と安全	○	○	日本精米工業会の「Fマーク」、「精米HACCP」を取得し、安全で品質の高い米を提供している。従業員が健康で働くことができるよう、健康経営優良法人の認定取得を検討している。	3 8.8
		資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	食糧	○		岐阜県内最大手の米卸業者として、品質の高い米を安全・安定的に供給している。生産者と連携し、高温にも強く倒伏しにくいブランド米の開発に取り組んでいる。米粉製造事業を開始し、食の多様性と安全性に貢献している。	3
		生活	雇用	○		業務に必要な資格取得支援を行っている。事業拡大に伴う採用人数増加を検討している。	8.6
			賃金	○		直近5年間へアを継続するなど賃金面の改善を実施。今後も処遇や退職金制度の導入を検討している。	8.5
		平等と正義	ジェンダー平等	○		女性従業員の採用増やしていく方針である。	8.8
	社会経済	健全な経済	零細・中小企業の繁栄	○		県内の生産農家から仕入をすることで生産農家の所得向上に繋がっている。	9.1
	自然環境	気候の安定性	気候の安定性	○	○	太陽光発電設備の設置、営業車両のEV/HV車への買い替え、電気使用量削減等を通じて、CO <sub>2</sub> 排出量削減に取り組んでいく。環境保全米の取扱量拡大に取り組んでいく。	7.2 13.2
		サーキュラリティ	廃棄物			○	ITツールを導入し、紙の使用量削減に取り組んでいる。

※同社の「ジェンダー平等」、「気候の安定性」のPIは、同社固有のインパクトとして追加する。

※インパクトリーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いいため、評価対象外とした。

#### (4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

### 環境（Environment）

#### 環境・自然資本に配慮した経営の推進

- 同社は、精米事業を通じて地域環境への負荷軽減と自然資本の保全に取り組んでいる。
- 農薬や化学肥料の使用量を削減し、環境に配慮した製法で栽培される「低農薬米」や「環境保全米」の流通を積極的に推進することで、水田および周辺地域の水質・土壌・生態系に与える影響を低減し、持続可能な農業の普及に貢献している。また、倉庫には屋根置き太陽光発電設備を導入し、再生可能エネルギーの活用拡大を図ることで、事業活動におけるエネルギーの脱炭素化を進めている。さらに、社用車をEVやHVへ順次切り替えることで、輸送・業務活動に伴う温室効果ガス排出量の削減を目指している。
- 加えて、DXの推進による事務作業の省力化・効率化にも取り組んでおり、紙使用量の削減など、業務プロセス全体での環境負荷低減に寄与している。
- このインパクトは「気候の安定性」、「水域」、「土壌」、「生物種」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、同社における自然環境面のPIを拡大するとともにNIを縮小すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 6.3：2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物・物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する。
  - 7.2：2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
  - 12.4：製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質や全ての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。
  - 12.5：2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
  - 13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
  - 15.4：2030年までに持続可能な開発に不可欠な便益をもたらす山地生態系の能力を強化するため、生物多様性を含む山地生態系の保全を確実に行う。

## 社会（Social）

### 安心・安全なお米の供給による食生活および農家の発展への貢献

- 同社は、精米事業を中心に、地域農業の持続性向上と地域社会の食の安定に資する取組を展開している。まず、生産者・自治体と協働し、夏季の高温や台風など気候変動リスクに強い新たな水稻品種を開発した。同品種は食味が「コシヒカリ」と同等であり、品質を維持しつつ気象災害の影響を受けにくい特徴を持つ。これにより、地域農家の収量安定および収入確保に寄与するとともに、ブランド米としての付加価値創出につながっている。今後も継続的な新品種開発に取り組むことで、地域農業の強靱化と持続的発展に寄与することが期待される。
- 米価格高騰により地域の米小売店の廃業が増加する中、従来小売店から購入していた住民の不便が生じないよう同社が供給機能を補完し、地域における米の安定供給体制を構築していく方針である。
- さらに、近年増加する小麦アレルギーへの対応として、2023 年より米粉事業を開始し、学校給食や地元パン事業者への安定供給を行っている。この取組は、アレルギーを有する児童等の食の安全確保に加え、地域事業者の新たな商品開発機会の創出にも寄与している。
- 以上のように同社の事業は、地域農業の生産基盤強化、住民の食の安定確保、多様な食ニーズへの対応など、地域社会に対して高い社会的インパクトを有している。
- このインパクトは「健康と安全」、「食糧」、「零細・中小企業の繁栄」のカテゴリに該当し、社会、社会経済面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
  - 9.1：全ての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を支援するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつ強靱（レジリエント）なインフラを開発する。

### ダイバーシティ経営の推進および働きやすい職場環境の整備

- 同社は、地域に根差した雇用の創出と持続的な人材確保に向けて、福利厚生充実、人材育成に取り組んでいる。
- 人材育成に関しては、業務に関連するフォークリフト免許、農産物検査員、食品衛生管理者などの資格取得費用や、精米技術に係る講習費用を全額会社負担とするなど、専門性の高い人材育成を積極的に推進している。
- 人材採用に関しては、岐阜県内の中学校で配布される教材に自社の取り組みを掲載し、若年層に対して地域産業としての魅力を発信しており、新卒採用の強化につなげている。また、直近 5 年間にわたり継続的にベースアップを実施するなど、安定した賃金改善に取り組んでいる。今後人事制度や退職金制度の検討を進めることで、地域労働市場における魅力向上と人材定着を図っていく。
- また、同社は健康経営優良法人の継続認定を取得しており、従業員の健康維持・増進を重視した企業運営を行っている。女性人材の獲得にも注力しており、有給休暇取得率の向上や年間休日の拡大を図ることで、全従業員がワーク・ライフ・バランスを実現できる職場環境の整備を進めている。

- このインパクトは「健康と安全」、「雇用」、「賃金」、「ジェンダー平等」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大、NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
  - 8.6：就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。
  - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

## 企業統治（Governance）

### 食品安全衛生管理の実施

- 同社は、日本精米工業会の厳格な品質管理基準を満たす「F マーク」認定工場において精米を行い、高い衛生水準で製品を提供している。また、精米工程における衛生管理を体系的に確立した「精米 HACCP」認証を取得し、食品安全性の向上とリスク低減に継続的に取り組んでいる。これらの体制により、顧客へ安全・安心な精米を安定的に供給する仕組みを構築している。
- このインパクトは「健康と安全」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
  - 3：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

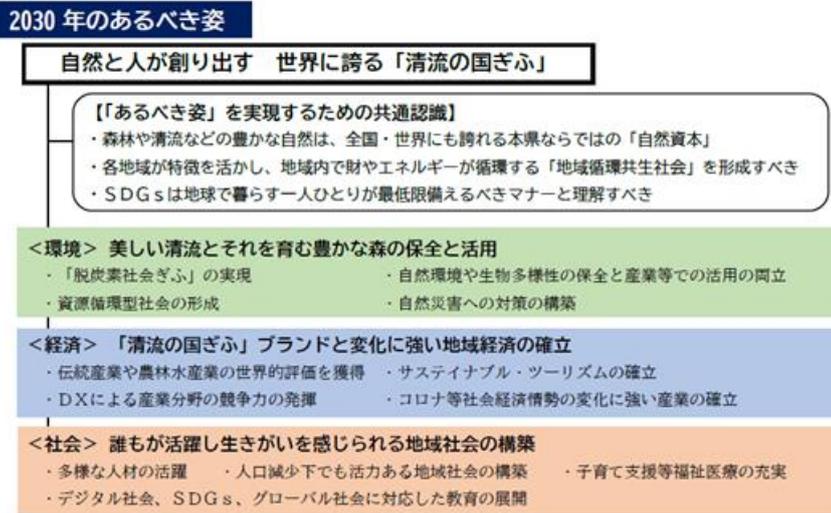
① 国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、「6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」、「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」、「15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12、13、15」において大きな課題が残る、「6、7、8、9」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



② 岐阜県におけるインパクトニーズ

- 岐阜県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、岐阜県における SDGs 達成に向けての課題を確認した。



③ 大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。

同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）
環境・自然資本に配慮した経営の推進	気候変動対応、環境保全
安心・安全なお米の供給による食生活および農家の発展への貢献 食品安全衛生管理の実施	地域経済の持続的成長
ダイバーシティ経営の推進および働きやすい職場環境の整備	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

### 3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する

#### 環境・自然資本に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面において PI を拡大 自然環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「気候の安定性」「水域」「土壌」「生物種」「廃棄物」
関連する SDGs	    
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学農薬や化学肥料を従来の半分以下の使用量にし肥料や農法全体で環境に配慮した栽培で作る「環境保全米」や、通常栽培と比較して農薬や化学肥料の使用量を 5 割以上減らした「低農薬米」の流通を拡大させることで、地元を中心とした自然資本（里山）の保全に貢献する</li> <li>・倉庫への太陽光発電設備の設置や、本社への太陽光発電設備の設置検討を通じて、再生可能エネルギーの利用を推進</li> <li>・社用車の EV・HV への切り替えなどにより温室効果ガス排出量の削減に向けた取り組みを推進</li> <li>・DX の推進により事務の省力化および効率化を図る</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2030 年 3 月期までに環境保全米と低農薬米の取扱い量を全体の 30%以上とする (2025 年 3 月期実績：全体の 10%)</li> <li>・2029 年 3 月期までに電気使用量を 2025 年 3 月期比 10%削減する (2025 年 3 月期実績：602,085kwh)</li> <li>・2029 年 3 月期までに社用車を 4 台 EV・HV へ切り替える (2025 年 3 月期：EV・HV 営業車両数 4 台/全営業車両数 16 台)</li> <li>・2031 年 3 月期までにフォークリフトを追加で 2 台 EV へ切り替える (2025 年 11 月末時点：EV フォークリフト 1 台/全フォークリフト数 3 台)</li> <li>・2029 年 3 月期までに紙の使用量を 2025 年 3 月期比 20%削減する (2025 年 3 月期実績：70,000 枚)</li> </ul> <p>※以降の目標は改めて設定する</p>

**安心・安全なお米の供給による食生活および農家の発展への貢献**

項目	内容
インパクトの種類	社会的、社会経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「健康と安全」「食糧」「零細・中小企業の繁栄」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の米価格高騰に伴い地域での小売店の廃業が目立つ中、地域の消費者に安定供給できる体制を構築する</li> <li>・小麦アレルギーに対応するため、2023 年頃より開始した米粉事業により、地元の学校給食、パン屋に安定供給を行う</li> <li>・岐阜県の農業発展および保護のため、生産者や自治体と連携し開発した新種のブランド米の供給およびさらなる新種を開発する</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2031 年 3 月期までに売上高を年間 60 億円以上にする (2025 年 3 月期実績 : 37.5 億円)</li> <li>・2031 年 3 月期までに米粉の売上高を年間 12 百万円以上にする (2025 年 3 月期実績 : 約 6 百万円)</li> <li>・2031 年 3 月期までに岐阜県産ブランド米「清流のめぐみ」の取扱量を 6,000 俵以上にする (2025 年 3 月期実績 : 約 3,000 俵)</li> <li>・2031 年 3 月期まで徳川将軍家御前米 (岐阜県輪之内町産) の取扱量を維持しつつ、輪之内町と営農組合との共同研究により新ブランド米の取扱いを開始し、市場に流通させる (2025 年 3 月期「徳川将軍家御前米」取扱い実績 : 約 8,000 俵)</li> </ul>

**ダイバーシティ経営の推進および働きやすい職場環境の整備**

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「健康と安全」「雇用」「ジェンダー平等」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性社員獲得に向けた取り組みを推進し、年間休日を増やすため、有給休暇取得率の向上を図り、全従業員がワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場環境を整備</li> <li>・岐阜県下中学校に配付される教材に同社の内容を掲載し、若い世代に魅力を発信し、特に新卒採用に注力する</li> <li>・直近 5 年間ベアを継続するなど賃金面の改善を実施。今後も処遇や退職金制度の検討により採用に注力する</li> <li>・健康経営優良法人認定の継続取得を通じて、従業員の健康に配慮した健康経営の推進</li> </ul>
KPI	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2027 年 3 月期以降、毎年 3 名の新卒・中途採用を行う (直近実績なし)</li> <li>・2029 年 3 月期までに女性社員を 2 名採用する (2025 年 3 月期実績 : 3/29 名)</li> <li>・農産物検査員の資格保有者を 2029 年 3 月期までに 2 名増やす (2025 年 3 月期実績 : 7 名)</li> <li>・お米マイスター※の資格保有者を 2029 年 3 月期までに 90%以上とする (2025 年 3 月期実績 : 約 83% 24/29 名) ※お米に関する幅広い知識を持ち、米の特性(品種特性、精米特性)、ブレンド特性、炊飯特性を見極めることができ、その米の特長を最大限に活かした「商品づくり」を行い、その米の良さを消費者との対話を通じて伝えることができる者</li> <li>・2027 年 3 月期までに、健康経営優良法人認定を取得し、以後継続する ※以降の目標は改めて設定する</li> </ul>

#### 4. モニタリング

##### (1) 株式会社ギフライスにおけるインパクトの管理体制

- 同社では、恩田社長を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を恩田社長とし、SDGs の推進、ならびに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

##### (2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

**【留意事項】**

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。